

はじめに

本報告書に収録した研究は、佐藤博樹と佐野嘉秀の2名が、東京大学大学院経済学研究科で担当した2005年度の演習「人的資源管理」（後期）に参加した大学院生とともに実施した企業調査によるものである。演習が終了した後に、追加のインタビュー調査を行うとともに、参加メンバーによる議論を踏まえて、事例のとりまとめを行い、東京大学社会科学研究所人材ビジネス研究寄付研究部門の研究成果として刊行するものである。

人材ビジネス研究寄付研究部門では、製造業の設計部門における派遣技術者の活用実態や課題とともに、製造企業に対して技術者を派遣する派遣企業における人事管理やキャリア管理の現状・課題に関して、調査研究を実施してきている。これまでの研究は、2004年度の演習「人的資源管理」（前期、後期）の授業の一貫として行われ、それぞれの成果は、寄付研究部門の研究シリーズの『設計部門における外部人材活用の現状と課題』（No.3、2005年3月）および『製品設計分野における技術者派遣企業のキャリア管理』（No.5、2005年10月）として刊行されている。また、人材ビジネス研究寄付研究部門の2007年度および2008年度のプロジェクトとして、派遣技術者の働き方やキャリア形成の現状に関する個人アンケート調査を実施しており、その成果は今年度中に研究シリーズとして刊行される予定である。

2004年度の演習「人的資源管理」（前期）では、製造業の設計部門の外部人材（請負、派遣）の活用実態にアンケート調査（「多様な人材の活用と製品設計の効率化に関する調査」）を実施したが、本報告書に収録した事例研究は、そのアンケート調査を補完することを目的として、アンケート調査の回答企業に対して、さらに詳細なインタビュー調査を実施したものである。なお、アンケート調査の目的は、製品設計分野における多様な人材活用にかかわる実態を把握し、製品設計の効率化に向けた、より効果的な人材活用のあり方を検討することにあった。

本報告書に収録した事例研究では、上記のアンケート調査の結果を踏まえて、設計部門における派遣技術者の活用の実態や課題を詳細に明らかにすることを目的とした。具体的には、①設計部門の概要および要員構成、②派遣

技術者の活用の理由と方針、③派遣技術者の要員管理、④派遣技術者を活用する仕事の範囲、⑤派遣企業の選択基準および取引状況、⑥派遣技術者の技能水準・定着状況等への評価、⑦派遣技術者の活用にともなう効果と課題、⑧効果的な活用のための取り組み内容などに関してインタビュー調査を行った。

製造企業4社へのインタビュー調査は、佐藤と佐野の2名の指導のもと、鹿生治行、高橋康二、山路崇正、中川功一の4名がそれぞれ分担して実施し、それに基づいて第2部のインタビュー記録を作成した。第1部総論（佐野執筆）では、第2部のインタビュー記録に基づき、設計部門における外部人材活用の現状と課題について分析をこころみている。

本研究は、お忙しい中、インタビュー調査にご協力いただいた4社のご協力によってはじめて可能となったものである。匿名を条件に調査にご協力いただいたため、企業名を記すことができないが、記してお礼を申し上げたい。

研究のとりまとめに際して、人材ビジネス研究寄付研究部門の堀田聰子特任准教授と松浦民恵特任研究員にお世話になった。また、本報告書の編集作業は、田村美樹氏によるものである。

2008年7月

佐藤博樹（東京大学社会科学研究所教授）

佐野嘉秀（東京大学社会科学研究所人材ビジネス
研究寄付研究部門特任准教授（兼任）、
法政大学経営学部准教授）